

長崎県幼児教育センターだより

No. 9



2024. 11. 21



～ 学びの秋！～

11月中旬からようやく秋らしい冷えを感じる日が増え、遅かった紅葉が一気に進む期待感と短い秋を楽しむ間もなく慌ただしい師走がやってくるという焦燥感を同時に感じるこの頃です。各園では、秋遊びを楽しんだり、様々な行事に向かう準備をしたりと充実したときを過ごされていることと思います。

さて、今号は研究協議会や研修会の特集です。「〇〇の秋」と名がつく秋が様々ありますが今回は「学びの秋」をお届けいたします。

～幼小教員同士で「幼小教育の円滑な接続」について考える！～

去る10月31日、県の委託を受け、研究テーマ「『遊び』を見る目、『学び』を見る目～幼小教員同士の交流を深め、互いの教育観を共有しよう～」を掲げ、大変熱心に研究に取り組んでくださった認定こども園いなさ幼稚園（園長：田中元子氏）の研究協議会が行われました。この研究には長崎市教育委員会をはじめ、朝日小学校の米村郁子校長先生を中心に多くの先生方がご協力くださり、子ども同士、職員同士の交流や互いの教育について学び合う保育・授業参観、合同研修会の充実が図られました。幼小の職員同士が対話する機会をもち、互いの教育を理解し合うことで保育が変わり、子どもの遊びの内容深化と同時に小学校へつながる学びの芽が生まれるというよい循環を研究の成果として発表いただきました。今回のように、幼小の研究発表会等の場に双方の職員が参加し、協議する姿があたりまえの光景になることを願い、県下全域における幼保小連携に力を入れていきたいと思っています。



多くの研究実践と幼小互いの教育を理解した上で工夫した支援の方法や手立て、新たな取組等が紹介されました。

朝日小学校の米村校長先生が幼小連携における教員同士が互いを知ることの重要性と授業の変容とのつながりについてお話しくださいました。

班別協議では、円滑な幼小接続に向けた取組の実際や課題、工夫について熱心な協議がなされました。



～熱い学びの姿！特別支援教育研修会～

今年度、初開催となった特別支援教育研修会には130名近い申込みがあり、会場収容人数の関係で一施設お一人の人数調整をさせていただくほど、皆さんの関心の高さが伺えました。講師として長崎大学生命医科学域の岩永竜一郎教授と長崎県教育庁特別支援教育課の多々川節子指導主事にご講義いただき、配慮が必要な子どもや保護者への支援の在り方やよりよい支援をつなぐ書類の作成について学びを深めました。次年度も同様の研修会を予定しておりますので、どうぞご参加ください。



熱心にメモを取り、うなずきながら
聴講する先生方の学びに向かう熱い姿



班別協議後、個別の指導計画の書き方
に関する工夫や参考となる園内体制を紹介

～第二期市町アドバイザー養成研修に向けて～

昨年度2月からスタートしました第一期市町アドバイザー養成研修も全5回の研修が終盤を迎えています。そして、市町担当課推薦による第二期の募集が始まっています。現在、県の幼児教育アドバイザー3名が県下全域の訪問支援活動を行っていますが、市町にもアドバイザーを養成し、各施設並びに各市町全体の保育の質の向上を目指すことを目的とした研修です。研修を受けたらすぐにアドバイザーとして活動しなくてはならないものではなく、市町行政の派遣体制が整うまでは、自園内研修の充実や地域内での公開保育等、できることから少しずつ保育の質の向上に向けた動きを進めていただきたいと願っております。

第一期生 計20名

(行政関係者) 長崎市1名、佐世保市1名、島原市1名、大村市2名 壱岐市2名
(園関係者) 平戸市1名 松浦市5名 対馬市1名 時津町2名 川棚町1名
波佐見町1名 佐々町2名

研修内容(全5回) (業務の都合等で受講できない研修は次年度に受講可能。)

第1回 行政説明・班別情報交換 **第2回** 実地研修①(県AD訪問支援同行・観察)
第3回 特別支援教育講義・不適切保育の防止研修体験(オンライン研修)
第4回 保育観察に関する講義・班別協議 **第5回** 実地研修②(保育助言体験)



ぜひ、挑戦してみたいと思われる方は、市町担当課へご連絡ください！

(文責：石田 久美子)